

せたがや自治政策

Setagaya Local Government Policy

Vol. 11

平成30年度せたがや自治政策研究所 研究・活動報告

【Ⅰ 研究報告】

〈自治体経営のあり方研究〉

- 1 住民自治と区民参加
- 2 世田谷区における協働政策の展開
- 3 区職員による研究チームの議論から
- 4 「せたがや的なもの」の出発点

〈都市空間の社会的特性〉

- 5 市街地再開発事業における周辺住民への対応
- 6 データで見る世田谷 —— 「働き手」と「働く場」

【Ⅱ 活動報告】

- 1 平成30年度実施報告
- 2 資料

せたがや自治政策研究所

研究・活動報告書の発行にあたって

せたがや自治政策研究所は平成 19 年 4 月に活動を始め、本年 4 月で 13 年目を迎えました。これまで、当研究所では「調査・政策研究の推進」、「政策立案の支援」、「情報資産の整備と活用」、「人材育成の促進」という 4 つの役割を軸とした取組みを展開しつつ政策形成基盤のさらなる強化を目指してまいりました。

研究所に与えられた責務は、中長期を展望した調査・政策研究を実施し、成果を区民と全庁各課に還元し、政策形成の基礎をつくとともに、知のネットワークを形成し地域生活の質を高めることにあります。なかでも調査・政策研究機能の充実とそれに伴う政策提言の具体化が研究所にとりまして最も重要であると考えています。

平成 30 年度の調査・政策研究の中心テーマは、「自治体経営のあり方研究」です。平成 30 年度に自治経営のあり方研究プロジェクト・チーム（P T）が庁内に設置され、研究所は事務局として議論全体のコーディネート役を担いました。研究報告 3「区職員による研究チームの議論から」は全 8 回にわたる議論をまとめたものです。今後の自治体経営において、新たな発想による課題解決と領域横断的で総合的な対応が必要になることが浮かび上がっています。この P T の議論を踏まえ研究員が個別にテーマを設定し研究したものが「住民自治と区民参加」および「世田谷区における協働政策の展開」です。20 年先を見据えた「参加」と「協働」の新たな推進策をそれぞれ検討しています。また、『「せたがや的なもの」の出発点』は、昭和 50 年の区長公選復活後の世田谷らしい政策展開を振り返り、先進的な取組みを生み出してきた「せたがや的なもの」を再認識することが自治体経営のあり方を研究するうえで重要と考え補論として掲載しました。

2 つ目の調査・研究テーマは、「都市空間の社会的特性」です。「市街地再開発事業における周辺住民への対応」は、1980～1990 年代の三軒茶屋再開発（第二工区）における住民対応に着目し、その経緯と意義を論じたものです。「データで見る世田谷（世田谷の地域特性の析出）」は、統計データから世田谷区の特徴を把握する基礎研究と位置づけており、今回は区民の就業を主題としました。

これらを通じまして、区民の方々への発信、全庁各課との協力関係をさらに進めてまいり所存です。今後も当研究所への変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

せたがや自治政策研究所
所長 森 岡 清 志

目次

I 研究報告

〈自治体経営のあり方研究〉

1 住民自治と区民参加	3
2 世田谷区における協働政策の展開	41
3 区職員による研究チームの議論から	77
4 「せたがや的なもの」の出発点	97

〈都市空間の社会的特性〉

5 市街地再開発事業における周辺住民への対応	115
6 データで見る世田谷—「働き手」と「働く場」—	139

II 活動報告

1 平成 30 年度実施報告	173
2 資料	273